

 渡邊 陽一郎 社長	株式会社 朝日ラバー(5162)
	

企業情報

市場	JASDAQ
業種	ゴム製品(製造業)
代表取締役社長	渡邊 陽一郎
所在地	埼玉県さいたま市大宮区土手町 2-7-2
決算月	3月
HP	http://www.asahi-rubber.co.jp/

株式情報

株価	発行済株式数(自己株式を控除)		時価総額	ROE(実)	売買単位
653円	4,529,044株		2,957百万円	8.0%	100株
DPS(予)	配当利回り(予)	EPS(予)	PER(予)	BPS(実)	PBR(実)
30.00円	4.59%	73.30円	8.9倍	987.28円	0.66倍

*株価 6/13 終値。発行済株式数は直近四半期末の発行済株式数から自己株式を控除。ROE、BPSは前期実績。

*DPS(予)は、記念配当10円を含む。

業績推移

決算期	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	EPS	配当
2016年3月(実)	5,976	237	235	131	29.16	13.00
2017年3月(実)	6,511	475	490	341	76.09	16.00
2018年3月(実)	7,534	561	589	459	101.98	20.00
2019年3月(実)	7,706	483	508	352	77.97	20.00
2020年3月(予)	7,810	464	466	332	73.30	30.00

*予想は会社予想。

*2020年3月期(予想)の配当金の内訳は、普通配当20円、記念配当10円。

*単位:百万円

目次

[今回のポイント](#)

[1. 会社概要](#)

[2. 中期経営計画](#)

[3. 2019 年 3 月期決算](#)

[4. 2020 年 3 月期業績予想](#)

[5. 今後の注目点](#)

[＜参考:コーポレートガバナンスについて＞](#)

今回のポイント

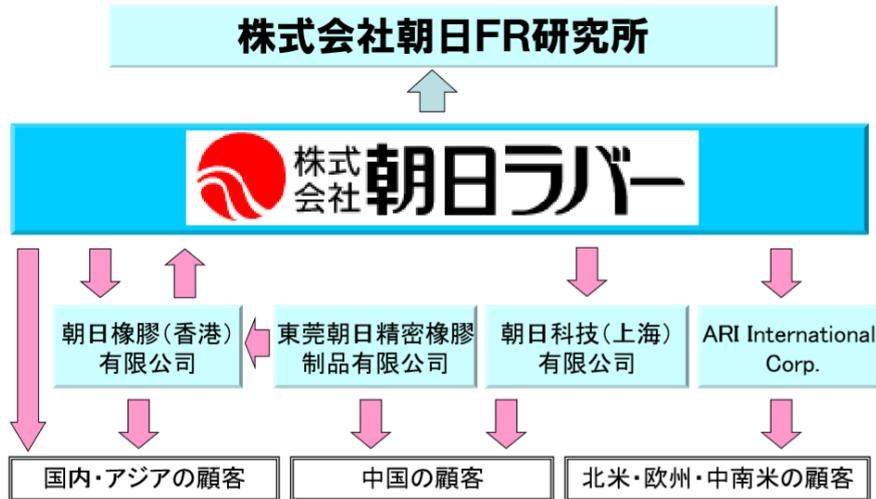
- 20/3 期は前期比 2.3%の増収、同 13.7%の経常減益。RFID タグ用ゴム製品や医療用ゴム製品の受注が好調に推移したことなどにより、売上高は、工業用ゴム事業及び医療・衛生用ゴム事業の両事業において増加し、過去最高を更新した。一方、受注予測を見込み、設備投資や採用等の先行投資を実施したことなどによりセグメント利益は、工業用ゴム事業及び医療・衛生用ゴム事業の両事業ともに減少した。
- 20/3 期の会社計画は、前期比 1.3%の増収、同 8.4%の経常減益。売上高は、自動車関連製品の販売及び RFID タグ用ゴム製品等の工業用ゴム事業の受注増加を見込んでいる。一方、セグメント利益は、医療・衛生用ゴム事業の販売の減少の影響及び設備投資、人員補強等によるコスト増加などを考慮している。1 株当たり配当は、19/3 期から 10 円増配の 30 円の予想(上期末 10 円、期末 20 円)。期末配当に記念配当 10 円が含まれている。
- 現在進行中のV-2計画(第 12 次三カ年中期経営計画)の中で実施してきた各種の取組が成果に結びつく時期に近づいている。自動車エクステリア市場へ新規参入する ASA COLOR LENS、同社独自開発の医療用回路製品を市場投入する採血用・薬液混注用ゴム、RFID タグ用ゴム製品の次世代製品、電流極性の切替により冷却・加熱が可能な電子製品「ペルチェデバイス」を応用し、ゴムならではの柔軟性のある熱伝導シートと組み合わせた F-TEM などがその代表例である。今期投入予定の新製品の販売状況や採用状況が期待される。

1. 会社概要

小型電球や LED に被せる事で様々な発色を可能にする被覆用ゴム製品を主力とする。自動車の内装用照明を中心に、携帯用通信機器、電子・電気機器、産業機器、スポーツ用等、幅広い分野で利用されている。シリコーン(ゴム状の合成樹脂)材料の配合技術と調色技術に強みを有し(色と光のコントロール技術)、シリコーンゴムに蛍光体を配合した LED 用ゴムキャップは、LED の光を波長変換して色調や輝度を調節できるため、10,000 色以上の光を出す事や LED の課題である光のばらつきを均一化する事が可能。また、医療・衛生用ゴム製品や硬質ゴムと軟質ゴムの複合製品等も配合技術を活かしてそれぞれの用途にあったゴム質を実現している。

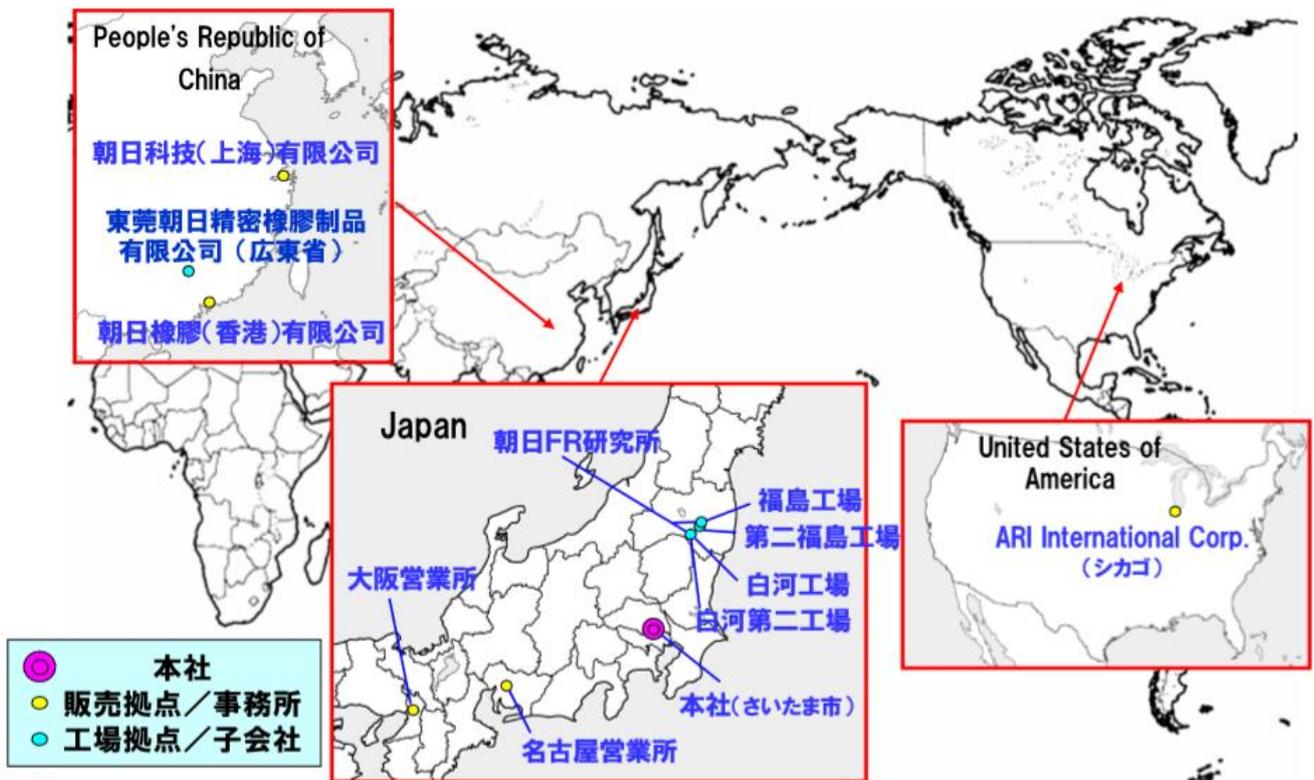
グループは、同社の他、ゴム・プラスチック等の研究開発を行う(株)朝日 FR 研究所、米国の販売会社 ARI INTERNATIONAL CORP.、及び工業用ゴム製品の販売を手掛ける朝日橡膠(香港)有限公司、10 年 7 月に設立した工業用ゴム製品の製造・販売を手掛ける東莞朝日精密橡膠制品有限公司、及び 12 年 1 月に設立した工業用ゴム製品の開発・設計・販売を手掛ける朝日科技(上海)有限公司の連結子会社 5 社からなる。

事業系統図



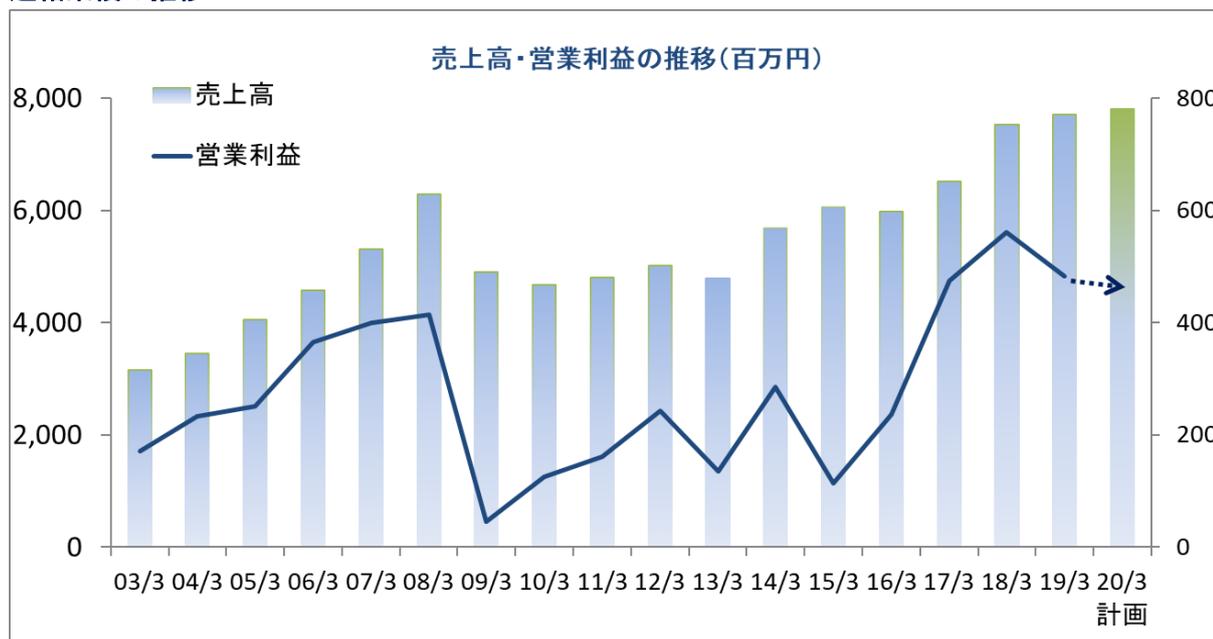
(同社決算説明会資料より)

海外拠点



(同社決算説明会資料より)

連結業績の推移



【事業内容と主要製品】

事業は、自動車のスピードメーターや内装照明の光源向けの「ASA COLOR LED」や各種センサ向けのレンズ製品「ASA COLOR LENS」、或いは弱電製品に使われる応用製品、更にはスポーツ用ゴム製品(反発弾性、高摩擦抵抗等を追及した高品質の卓球ラケット用ラバー)等の工業用ゴム事業、点滴輸液バッグ用ゴム栓や真空採血管用ゴム栓、プレフィルドシリンジ(薬液充填済み注射器)向けガスケット等、使い捨てのディスプレイ用ゴム製品の医療・衛生用ゴム事業に分かれ、19/3期の売上構成比は、それぞれ84.3%、15.7%。今後は、RFIDタグ向け新製品、マイクロTAS製品などの新製品の販売拡大が期待される。

・ASA COLOR LED

ASA COLOR LED とは、LEDの光と色のばらつきを解消する商品。青色LEDに蛍光体を配合したシリコン製キャップを被せることで、自動車内装照明用に10,000色以上の均質な光を提供。顧客に要求される均一な色を実現している。

ASA COLOR LED のイメージ

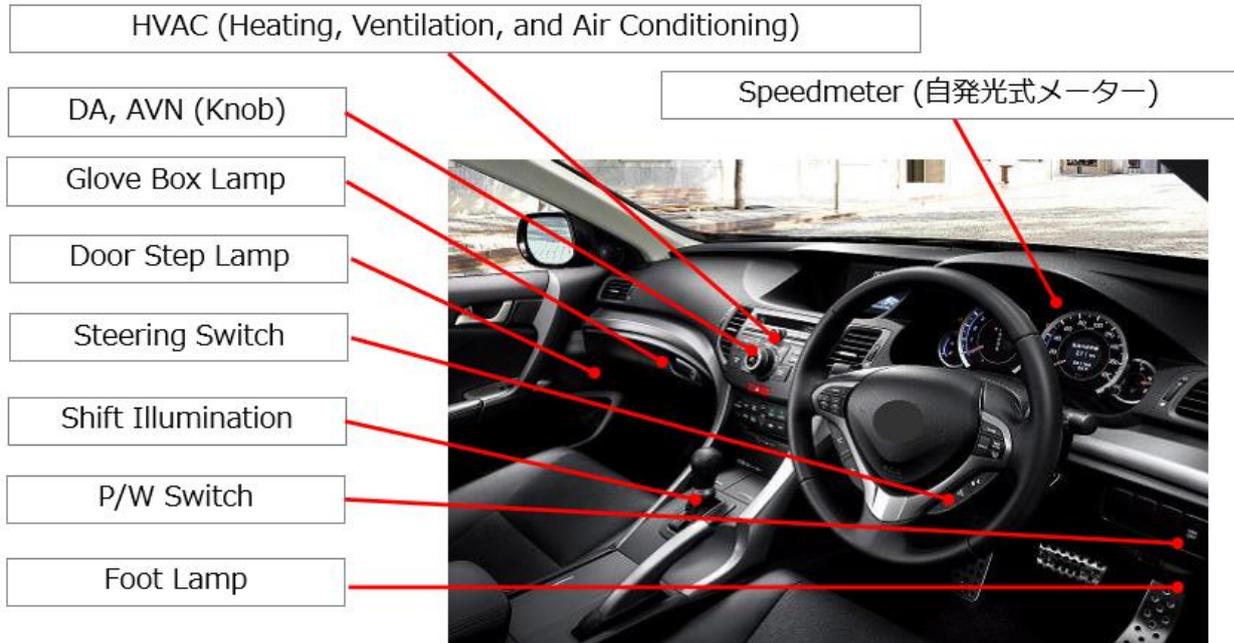


(同社決算説明会資料より)

ASA COLOR LED の採用例

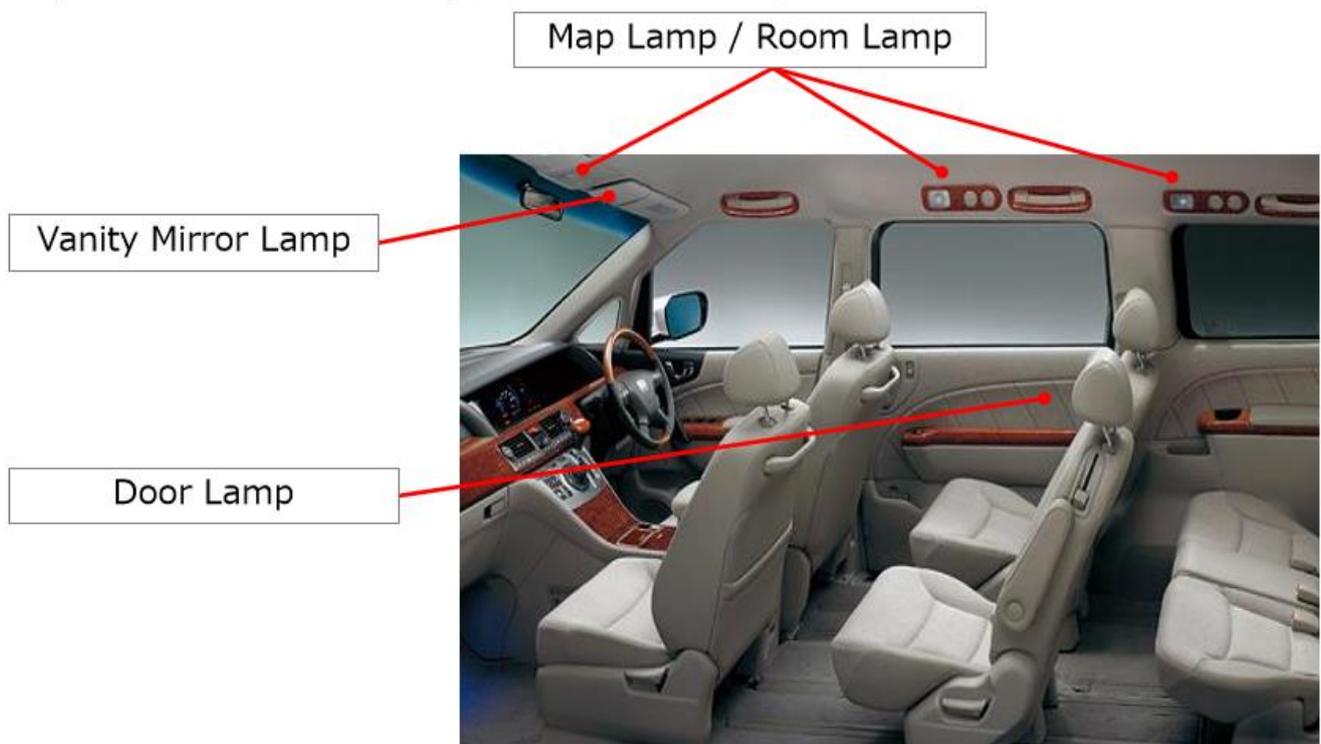
自動車内装照明に応用して、安心、安全、快適性を高める。

車載インテリア照明（インストゥルメントパネル）



(同社説明会資料より)

車載インテリア照明（ルーフモジュール）

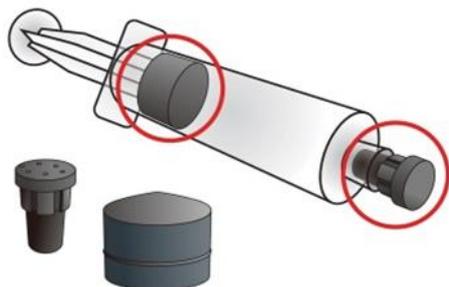


(同社説明会資料より)

・医療用ゴム製品

点滴輸液バッグ用ゴム栓、真空採血管ゴム栓、薬液混注ゴム栓、プレフィルドシリンジ(薬液充填済み注射器)向けガスケットなど、医療現場で用いられるディスポーザブル商品に使用される。安全性の高い材料を開発し、独自のコーティング技術で“漏れない”と“滑る”を両立し、注射速度の微妙な調節が可能。素材変性技術による安全性の高い材料と表面改質技術による摺動性の向上により、医療ミス防止などの安全性向上に貢献している。

プレフィルドシリンジ向けガスケットのイメージ

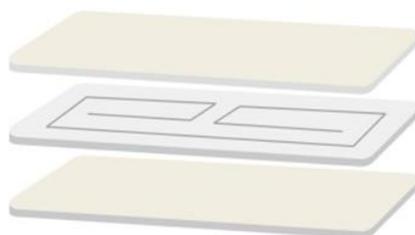


(同社決算説明会資料より)

・RFIDタグ用ゴム製品

RFIDタグ用ゴム製品は、溶剤を使わずに接着させる“分子接着・接合技術”を応用し、ICチップやアンテナ部をゴム素材で覆い、折り曲げに強く、耐水性、耐熱性に優れた、柔らかい小型のRFIDを提供。取り付ける対象がどのようなものかを記憶し、認識させる機能で、今後成長が期待される認証・認識ビジネスに対応。ゴムという弾性体の特徴を生かして、RFIDが使用できなかった用途への利用が可能に。さらに応用し市場拡大を進める。

RFIDタグ用ゴム製品イメージ



(同社決算説明会資料より)

【コア技術と事業領域】

オープンイノベーションで事業領域深耕につながる研究を加速するとともに、製品化に向けた実証研究を強化する。



(同社会社説明会資料より)

・色と光のコントロール技術

シリコンゴムに着色剤や蛍光体を配合し、様々な色と光を出すことのできる色調管理技術を有し、ばらつきを調整し、顧客が望む細かい色調を実現。また、透明なシリコン樹脂を材料とし、耐熱性、対紫外線性に優れ、集光・拡散といったレンズ機能を実現。ASA COLOR LEDなどにこの技術が生かされている。今後もこれら技術を活用し、自動車内装、照明分野とコア技術を応用したスイッチ分野の拡大を図る方針。

・表面改質及びマイクロ加工技術

接着剤を使わずに、ゴムとゴムや金属、樹脂を接着させる分子接着・接合技術を有する。接着させる表面を改質処理し、化学反応で結合。これにより、有害な溶剤の廃棄処理が不要となり、耐熱性、耐水性もクリア。耐水性、耐候性に優れており、RFIDタグ用ゴム製品やマイクロ流体デバイスでこの技術が生かされている。また、数十ミクロンから数ミクロン単位の表面加工を行うマイクロ加工技術を確立。医療用ゴム製品である薬液混注ゴム栓の薬液注入口の形成と薬液漏れの防止や、充電して使用できる二次電池の内圧管理にもこのマイクロ加工技術が生かされている。今後もこれら技術を活用し、高性能製品や新たな分野を開拓する方針。

・素材変性技術

ゴムをはじめとするソフトマテリアルは、素材に添加物を配合することで求める機能を持たせることができる。更に、ナノ・分子レベルで成形することによりその機能をパワーアップすることも可能。卓球ラケット用ラバーなどにこの技術が生かされている。今後もこれら技術を活用し、医療分野を支える製品を提供する方針。

2. 中期経営計画

同社は、中期経営計画を策定するにあたり、中期三カ年を二回分の6年後、2020年を見据え、ビジョン(目指す姿)を「AR-2020 VISION」として定めている。後半の2017年4月から2020年3月までの二期目の三カ年計画を「V-2計画」とし、存在する市場に対して“魅力ある提案”をするために、素材力とサービスを磨き鍛え、多くの安心した製品を安定的に届けるためコア技術を磨いて育てていく方針。

V-2計画(第12次三カ年中期経営計画)

同社は、2018年3月期を初年度とする三カ年の「V-2計画(第12次三カ年中期経営計画)」(2017年4月～2020年3月)を策定した。中期経営方針として「AR-2020VISIONに通ずる質的成長を求めて広く社会に貢献する」を掲げ、中期経営戦略として、①ゴム技術・コア技術・製品力を成長させる、②経営基盤を磨き成長を加速すると定め、最終年度である20/3期に数値目標である、連結売上高70～80億円、連結営業利益率8%以上を目指す。先行きの不確定要因を考慮し、売上高目標は範囲を持って設定、質的成長を目指すため利益指標は率の成長を着実に目指す方針。また、最終年度目標は環境の変化などを考慮し、随時見直しをかける方針。

(1)事業分野の再編

従来、自動車、医療、ライフサイエンス、その他の4事業分野であったものを、車載・照明、医療・ライフサイエンス、その他の3事業分野へ変更する。これは、①照明全般に視点を広げて市場を見出し、新たな付加価値で市場創造を図る、②医療事業とライフサイエンス事業を融合することで、医療機器分野・診断医療分野などに対する経験を生かして、事業に対する総合力を強化する、③ゴム技術を生かした機構部品を創造することを目指すものである。

(2)事業分野の戦略

車載・照明(主要製品:ASA COLOR LED、透明部材、反射材料)

17/3期の連結売上高実績27.4億円に対し、20/3期の売上高は30～35億円を計画。当社のコア技術のひとつである色と光のコントロール技術を駆使したASA COLOR LEDなど、他社に真似のできない独自製品で市場と顧客の要望に応えることに加え、培った技術を照明全般に視点を広げて市場を見出していく。

医療、ライフサイエンス(主要製品:採血用・薬液混注用ゴム栓、プレフィルドシリンジ用ガスケット、マイクロ流体デバイス)

17/3期の連結売上高実績12億円に対し、20/3期の売上高は13～15億円を計画。医療現場での衛生管理や医療事故の防止などに役立つディスポーザブルのゴム製品と診断医療や解析分野に貢献するマイクロ流体デバイスの開発を進める。

その他(主要製品:RFIDタグ用ゴム製品、自動車向けスイッチ用ラバー、卓球ラケット用ラバー)

17/3期の連結売上高実績25.7億円に対し、20/3期の売上高は27～30億円を計画。ゴムの可能性を追求し、独自のコア技術と複合化させたこれまでにない付加価値を持つ機構製品を提供する。

その他、経営基盤を磨き成長を加速するために、拠点地域をつなぐ製品企画と連結販売を行う体制を構築する他、健康経営を軸に経営基盤を整備する。

なお、中期経営計画(V-2計画)最終年度である20/3期は、売上高目標は達成の見込みであるが、営業利益率は未達となる見通し。

3. 2019年3月期決算

(1) 連結業績

	18/3期	構成比	19/3期	構成比	前期比	修正会社予想 (2019/2/7)	予想比
売上高	7,534	100.0%	7,706	100.0%	+2.3%	7,789	0.0%
売上総利益	1,941	25.8%	1,907	24.8%	-1.7%	-	-
販管費	1,380	18.3%	1,423	18.5%	+3.2%	-	-
営業利益	561	7.4%	483	6.3%	-13.7%	539	-10.2%
経常利益	589	7.8%	508	6.6%	-13.7%	565	-10.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	459	6.1%	352	4.6%	-23.3%	398	-11.5%

* 単位: 百万円

* 数値には(株)インベストメントブリッジが参考値として算出した数値が含まれており、実際の数値と誤差が生じている場合があります(以下同じ)。

前期比 2.3%の増収、同 13.7%の経常減益

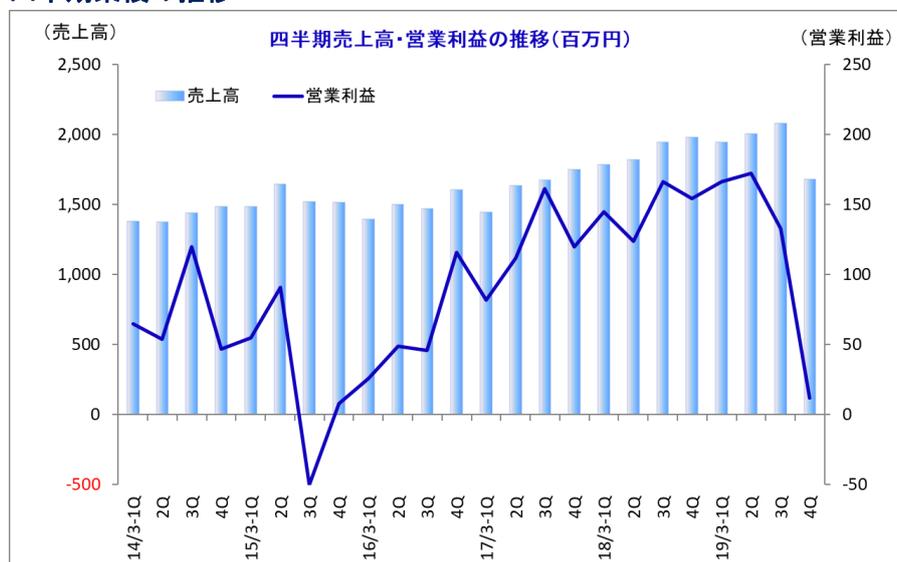
売上高は、前期比 2.3%増の 77 億 6 百万円。売上面では、工業用ゴム事業の売上高が同 2.1%増加。主力製品の自動車内装照明用の ASA COLOR LED の売上高は微減となったものの、RFID タグ用ゴム製品の受注が好調に推移した他、自動車のスイッチ用ゴム製品や卓球ラケット用ラバーも受注が好調に推移した。また、医療・衛生用ゴム事業の売上高も同 3.4%の増加となった。採血用・薬液混注用ゴム栓およびプレフィルドシリンジガasketなど、医療用ゴム製品全般において受注が堅調に推移した。

営業利益は、前期比 13.7%減の 4 億 83 百万円。受注予測を見込み、設備投資や採用等の先行投資を実施したことによるコスト増などが影響した。工業用ゴム事業のセグメント利益は同 7.5%の減益、医療・衛生用ゴム事業のセグメント利益も同 12.0%の減となった。医療・衛生用ゴム事業は、採血用・薬液混注用ゴム栓の新旧タイプの交代時期にあり、新タイプ以降への増産投資による費用増の影響が大きく出た。

売上高営業利益率は、6.3%と前期比 1.1%の低下。収益性の高い RFID タグ用ゴム製品の拡大などが寄与したものの、開発費用の増加や新基幹システム導入によるコスト増が影響し、売上総利益率は、24.8%と同 1 ポイント低下した。採用の増加などにより売上高対販管費率も同 0.2 ポイントの上昇。営業外損益と特別損益はほぼ前年並みとなったものの、法人税等の増加などにより親会社株主に帰属する当期純利益の減益率は営業利益の減益率を下回った。

なお、2月7日の修正会社計画に対しては、売上高及び各段階利益ともに上回る着地となった。

四半期業績の推移



19/3期第4四半期(1-3月)は、顧客企業の在庫調整や先行投資負担の増加の影響を受け、売上高、営業利益ともに前年同期を下回る結果となった。

*5/3Qと4Qは、取締役2名逝去による役員退職慰労引当金繰入額等の特殊要因が影響。

(2)セグメント別動向

セグメント別売上高・利益

	18/3期	構成比	19/3期	構成比	前期比
工業用ゴム事業	6,366	84.5%	6,498	84.3%	+2.1%
医療・衛生用ゴム事業	1,168	15.5%	1,207	15.7%	+3.4%
連結売上高	7,534	100.0%	7,706	100.0%	+2.3%
工業用ゴム事業	693	78.9%	641	79.7%	-7.5%
医療・衛生用ゴム事業	185	21.1%	162	20.3%	-12.0%
全社費用	-317	-	-320	-	-
連結営業利益	561	-	483	-	-13.7%

*単位:百万円

セグメント別売上高(中期事業分野別)

	18/3期	構成比	19/3期	構成比	前期比
車載・照明	3,373	44.8%	3,154	40.9%	-6.5%
医療・ライフサイエンス	1,189	15.8%	1,227	15.9%	+3.2%
その他	2,971	39.4%	3,324	43.2%	+11.9%
連結売上高	7,534	100.0%	7,706	100.0%	+2.3%

*単位:百万円

車載・照明セグメントでは、年度後半からASA COLOR LEDの売上高が減少したことが影響した。医療・ライフサイエンスセグメントでは、採血用・薬液混注用ゴム栓の旧タイプの終息延長が寄与した。また、その他セグメントでは、RFIDタグ用ゴム製品、自動車スイッチ用ゴムなどの売上高増加が寄与した。

国内・海外別売上高

	18/3期	構成比	19/3期	構成比	前期比
国内	6,100	81.0%	6,346	82.4%	+4.0%
海外	1,433	19.0%	1,359	17.6%	-5.2%
アジア	1,276	16.9%	1,195	15.5%	-6.3%
北米	138	1.8%	149	1.9%	+7.4%
欧州	18	0.3%	15	0.2%	-18.4%
合計	7,534	100.0%	7,706	100.0%	+2.3%

*単位:百万円

国内売上は前期比4.0%増加、海外売上はアジアの減少が影響し同5.2%減少した。

主力製品の売上推移

	18/3-1Q	2Q	3Q	4Q	1/3-1Q	2Q	3Q	4Q	前期比(年度)
ASA COLOR LED	646	750	843	883	768	768	733	648	-6.6%
医療用ゴム製品	303	274	291	260	264	309	329	276	+4.4%
卓球ラケット用ラバー	111	103	116	107	113	94	100	105	-5.5%
RFIDタグ用ゴム製品	163	127	137	140	184	218	325	171	+58.0%

*単位:百万円

ASA COLOR LED は、18/3 期後半に大きく受注が拡大し 19/3 期前半は平準化していたものの、昨年末以降は顧客の在庫調整等の影響で減少傾向となった。医療用ゴム製品は、採血用・薬液混注用ゴム栓の新機種の受注が好調に推移する中、旧機種の受注が第 3 四半期まで継続した。卓球ラケット用ラバーは、市場状況の変動はあるものの総じて堅調。RFID タグ用ゴム製品は、海外向けの販売が好調で第 3 四半期にかけ受注が大幅に増加したものの、第 4 四半期は顧客の在庫調整の影響により前四半期比で売上高が減少した。

(3) 個別及び子会社の動向

個別業績

	18/3 期	構成比	19/3 期	構成比	前期比
売上高	7,033	100.0%	7,194	100.0%	+2.3%
売上総利益	1,615	23.0%	1,555	21.6%	-3.7%
営業利益	413	5.9%	348	4.8%	-15.6%
経常利益	445	6.3%	399	5.6%	-10.2%
当期純利益	354	5.0%	270	3.8%	-23.7%

*単位:百万円

単体は、RFID タグ用ゴム製品、自動車用スイッチ用ゴム製品、医療用ゴム製品の受注が好調で増収となったものの、先行投資による費用の増加で減益となった。

子会社の動向

(単位:千円)	(株)朝日FR研究所		ARI International Corp.			
	ゴム・プラスチック等の研究開発 1987年4月設立		工業用ゴム製品の販売 1999年6月設立			
	19/3 期	前期比	18/12 期	前期比		
研究収入/売上高	163,229	+23.2%	159,403	+19.0%		
経常利益	-1,273	-	-17,633	-		
当期純利益	-715	-	-17,633	-		
円換算レート	1米ドル=110.37円					
(単位:千円)	朝日橡膠(香港)有限公司		東莞朝日精密橡膠制品有限公司		朝日科技(上海)有限公司	
	工業用ゴム製品の販売 2005年11月設立		工業用ゴム製品の製造・販売 2010年7月設立		工業用ゴム製品の開発・設計・販売 2012年1月設立	
	18/12 期	前期比	18/12 期	前期比	18/12 期	前期比
研究収入/売上高	545,283	+19.1%	801,633	+13.1%	255,891	+15.0%
経常利益	61,779	+31.3%	68,130	-21.4%	15,870	-29.1%
当期純利益	54,130	+37.8%	50,498	-22.3%	14,796	-33.9%
円換算レート	1香港ドル=14.08円		1人民元=16.64円		1人民元=16.64円	

先行投資負担の増加などにより前期比減益の会社もあったが、全子会社とも前期比で売上高が順調に拡大した。

(4) 財政状態及びキャッシュ・フロー

財政状態

	18年3月	19年3月		18年3月	19年3月
現預金	2,849	2,388	仕入債務	460	401
売上債権	1,762	1,793	短期有利子負債	1,093	1,100
たな卸資産	787	832	流動負債	3,373	3,126
流動資産	5,713	5,367	長期有利子負債	2,066	2,074
有形固定資産	3,601	3,946	固定負債	2,810	2,851
無形固定資産	92	101	純資産	4,324	4,471
投資その他	1,094	1,033	負債・純資産合計	10,508	10,449
固定資産・繰延資産	4,789	5,081	有利子負債合計	3,182	3,175

* 単位: 百万円

* 有利子負債=借入+リース

19年3月末の総資産は18年3月末比58百万円減の104億49百万円。資産サイドでは、工業用ゴム事業において自動車関連ゴム製品及びRFIDタグ用ゴム製品の増産対応の設備投資があったことにより機械装置及び運搬具等が増加したものの、仕入債務や電子記録債務等の支払いにより現預金が減少した。負債・純資産サイドでは、今期連結累計期間の利益計上に伴い利益剰余金等が増加したものの、設備電子記録債務などが減少した。19年3月末の自己資本比率は、42.8%と前期末から1.6ポイント高まった。

キャッシュ・フロー

	18/3期	19/3期	前期比	
営業キャッシュ・フロー	1,126	540	-585	-52.0%
投資キャッシュ・フロー	-801	-747	53	-
フリー・キャッシュ・フロー	325	-206	-532	-163.5%
財務キャッシュ・フロー	-447	-107	340	-
現金及び現金同等物の期末残高	1,164	834	-330	-28.4%

* 単位: 百万円

CFの面から見ると、前期との比較で、補助金の受取額減少や仕入債務の減少などにより営業CFのプラス幅が縮小した。また、有形固定資産の取得による支出が増加したものの、投資有価証券の取得による支出が減少したことなどにより、投資CFのマイナス幅は縮小した。この結果、フリーCFはマイナスへ転じた。短期借入金の減少がなくなり、財務CFのマイナス幅は縮小した。

19/3期の設備投資は9億48百万円(18/3期6億80百万円)、減価償却費は4億97百万円(同4億17百万円)。

4. 2020年3月期業績予想

(1) 連結業績

	19/3 期	構成比	20/3 期 予想	構成比	前期比
売上高	7,706	100.0%	7,810	100.0%	+1.3%
売上総利益	1,907	24.8%	1,959	25.1%	+2.7%
販管費	1,423	18.5%	1,495	19.1%	+5.0%
営業利益	483	6.3%	464	5.9%	-4.1%
経常利益	508	6.6%	466	6.0%	-8.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	352	4.6%	332	4.3%	-5.8%

* 単位: 百万円

前期比 1.3%の増収、同 4.1%の経常減益予想

20/3 期の会社計画は、前期比 1.3%の増収の 78 億 10 百万円、同 8.4%の経常減益の 4 億 66 百万円。売上面では売上面では、採血用・薬液混注用ゴム栓の旧タイプの終息による医療・衛生用ゴム事業の減少を、ASA COLOR LED や RFID タグ用ゴム製品の受注増加による工業用ゴム事業の拡大でカバーし過去最高を更新する見込み。一方、利益面は、売上増加による利益増加があるものの、前期から継続する将来に向けた投資による費用増が影響し各段階利益とも前期比減益の計画。売上総利益率は、前期比 0.3 ポイント上昇の 25.1%、売上高対販管費率は、同 0.6 ポイント上昇の 19.1%の会社前提。この結果、営業利益は、前期比 4.1%減益の 4 億 64 百万円となる計画。売上高営業利益率は、前期比 0.4 ポイント低下の 5.9%の予想。

1株当たり配当は、19/3期から10円増配の30円の予想(上期末10円、期末20円)。期末配当20円には、創立50周年の記念配当10円が含まれている。

(2) セグメント別業績予想

セグメント別売上高

	19/3 期	構成比	20/3 期 予想	構成比	前期比
工業用ゴム事業	6,498	84.3%	6,706	85.8%	+3.2%
医療・衛生用ゴム事業	1,207	15.7%	1,104	14.2%	-8.6%
連結売上高	7,706	100.0%	7,810	100.0%	+1.3%

* 単位: 百万円

セグメント別売上高(中期事業分野別)

	19/3 期	構成比	20/3 期 予想	構成比	前期比
車載・照明	3,154	40.9%	3,272	41.9%	+3.7%
医療・ライフサイエンス	1,227	15.9%	1,104	14.1%	-10.1%
その他	3,324	43.2%	3,434	44.0%	+3.3%
連結売上高	7,706	100.0%	7,810	100.0%	+1.3%

* 単位: 百万円

車載・照明セグメントでは、ASA COLOR LED、レンズ、シリコン応用製品などの受注が増加する見込み。医療・ライフサイエンスセグメントでは、採血用・薬液混注用ゴム栓の旧タイプの終息の影響で減少する予想。その他セグメントでは、RFID タグ用ゴム製品、自動車スイッチ用ゴムの受注が増加する計画となっている。

(3) 四半期別会社計画

	上期(19年4月~9月)			下期(19年10月~20年3月)			通期(19年4月~20年3月)		
	会社計画	構成比	前期比	会社計画	構成比	前期比	会社計画	構成比	前期比
売上高	3,707	100.0%	-6.1%	4,103	100.0%	+9.1%	7,810	100.0%	+1.3%
売上総利益	868	23.4%	-16.3%	1,091	26.6%	+25.3%	1,959	25.1%	+2.7%
営業利益	127	3.4%	-62.5%	337	8.2%	+132.2%	464	5.9%	-4.1%
経常利益	128	3.5%	-63.7%	338	8.2%	+116.6%	466	6.0%	-8.4%
当期純利益	88	2.4%	-62.9%	244	5.9%	+112.1%	332	4.3%	-5.8%

* 単位: 百万円

19年3月期後半の受注減少の影響が続き、上期は減収減益となる見通し。下期からの受注回復の見込みにより、下期は増収増益を予測、中期経営計画の営業利益率目標8%を達成できる見通し。

(4) 主要製品の売上計画

	19/3 実績	20/3 計画	増減率	前提・方針
ASACOLOR LED	2,917	3,035	+4.0%	・18/3期は、採用車種の中国市場での販売好調により受注が増加も、19/3期は、この傾向が落ち着き、次の新規採用活動に注力。
医療用ゴム製品	1,179	1,065	-9.7%	・採血用・薬液混注用ゴム栓は新規受注製品を計画どおりに量産へと導く。 ・独自コーティングのプレフィルドシリンジガasketの開発や細胞培養などに向けた超薄膜シリコンシートなど開発製品に取り組む。
卓球ラケット用ラバー	415	416	+0.1%	・これまでの主力製品と昨年スタートの新製品の受注が引き続き堅調に推移する見込み。
RFID タグ用ゴム製品	898	1,018	+13.1%	・競合対応の新機種投入による市場の拡大と採用増加による売上げ増を見込む。

* 単位: 百万円

(5) 設備投資計画

設備投資計画

	17/3 実績	18/3 実績	19/3 期初会社計画
設備投資	680	948	750
減価償却費	417	497	580

* 単位: 百万円

今期の設備投資計画7億50百万円の事業分野別内訳は、車載・照明分野2億30百万円、医療・ライフサイエンス分野1億70百万円、その他分野3億、共有・研究開発等50百万円。ASA COLOR LED、ASA COLOR LENS、プレフィルドシリンジガasket処理設備など投資を計画。

また、法人別では、同社6億円40百万円、東莞朝日精密橡膠製品1億円、朝日FR研究所10百万円(研究開発)等が大きなもの。

(6) 開発投資の推移

開発投資(販管費の研究開発費と知的財産費用及び開発に関する設備投資の合計)

	17/3 実績	18/3 実績	19/3 実績	20/3 会社計画
開発投資	192	263	263	265
連結売上比	3.0%	3.5%	3.4%	3.4%

* 単位: 百万円

第12次三カ年中期経営計画(V-2計画)どおり、同社各社において弾性無限への挑戦を推進し、ゴム技術・コア技術・

製品力の成長に投資する。

(7)分野別成長戦略

同社の、20/3期の経営方針は、好奇心を高めて深化、進化、新化しよう。

経営戦略は、基礎力を鍛えて質を高めよう(深化)、より優れた価値に高めよう(進化)、新たな道へ挑戦しよう(新化)であり、分野別の成長戦略は以下の通りである。

車載・照明分野

開発製品	特徴・用途
ASA COLOR LED	<p>自動車内装照明向け光源として、青色LEDに蛍光体を配合したシリコン製ゴムキャップをかぶせることで10,000色以上の光を実現。</p> <p>【深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●さらに色と光のばらつきを狭小化した調光製品の拡販。 ●新薄型パッケージ製品投入。 <p>【進化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●IATF16949(自動車産業の国際的な品質マネジメント規格)の認証取得活動。 2019年 東莞朝日精密橡膠制品有限公司 2020年 白河工場 <p>【新化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●光と色の新たな価値提案に向けて埼玉大学との共同研究。 感性認知支援研究を継続(感性工学重視)
白色シリコンインキ	<p>照明器具の反射板に塗布することで光反射取り出し効率を高め、耐熱性、耐UV性に優れたシリコン製インキ。</p> <p>【深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バックライト市場の省エネ、長寿命化に貢献。 <p>【進化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JIS規格(JIS Z 8922 照明器具用白色シリコンインキ塗膜) ✓ 取得を生かした差別化製品を開発。
ASA COLOR LENS	<p>耐熱性、耐UV性に優れた光透過率94%の集光・拡散機能を持つシリコン製レンズ。</p> <p>【深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●素材力、光学設計技術力を高め、機能性樹脂製品とのさらなる差別化を狙う。 <p>【進化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自動車エクステリア市場への新規参入。

医療・ライフサイエンス分野

開発製品	特徴・用途
プレフィルドシリンジガスケット	<p>あらかじめ薬剤が充填された注射器に使用されるガスケット。</p> <p>【深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル規格に準拠した豊富な量産実績で受注拡大へ。 ✓ 規格値を大幅に下回る低溶出素材開発 ✓ 生産能力増強で受注拡大 <p>【進化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●独自の表面改質技術で低摺動のコーティングを開発中。
超薄膜シリコンシート	<p>毒素の少ない医療用シリコンを使用した超薄膜のシリコンシート。</p>

	<p>【深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●他に類を見ない超薄膜成形技術を生かし、細胞培養や医療、分析機器用途へ標準品を展開。 ✓ 無溶剤で最薄 15 μmの成形を実現 ✓ 透明度が高く、顕微鏡による観察に最適
採血用・薬液混注用ゴム製品	<p>輸液システムで薬液を混注するゴム製品。</p> <p>【深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輸液回路、血液回路に対応するメディカル素材や加工素材を開発。 <p>【進化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●採血用・薬液混注用ゴム製品の一部を白河第二工場に移管し、増産に向けた準備を開始。 <p>【新化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●同社独自開発の医療回路製品を市場投入。

その他分野

ゴムの基礎技術を高めて機構部品を創造する。

開発製品	特徴・用途
卓球ラケット用ラバー	<p>球を高速で弾く反発弾性、強烈なスピンをかける高摩擦抵抗などを追及した高性能、高品質の製品。</p> <p>【進化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●顧客と連携し、さらに機能を追求した新製品を開発。
RFID タグ用ゴム製品	<p>情報の読み書きを保存する IC チップとアンテナ部をゴムで覆い、折り曲げに強く、耐水性、耐熱性に優れた柔らかい小型のタグ製品。</p> <p>【進化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●顧客と連携し、市場ニーズを満足する品質・機能を追求した次世代製品を市場投入。
感圧ラバーセンサ	<p>静電容量の変化により荷重を測定するセンサ。</p> <p>【深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●IoT やロボットなどのインターフェースとして開発・提案。 <p>【新化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●即時評価を手助けする動作検証用の感圧ラバーセンサ用ドライブキットの販売開始。
F-TEM (Flexible Thermos Electrical Module)	<p>電流極性の切替により冷却・加熱が可能な電子部品「ペルチェデバイス」を応用し、従来にないゴムならではの柔軟性のある熱伝導シートと組み合わせた製品。</p> <p>【新化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●サンプル出荷によるエビデンス取得活動を通じて市場参入を目指す。

5. 今後の注目点

同社の 19/3 期決算は、売上高は前期比増収となり過去最高の売上高を更新したものの、顧客の在庫調整に加え、設備投資や採用等の先行投資による費用増加により各段階利益が前期比減益となった。続く 20/3 期においても、上期は在庫調整の影響が残るため売上高の大幅な増加が見込めない中、前期から継続する将来に向けた投資による費用の増加が影響し減益傾向が続く計画となっている。同社では、下期以降の受注回復を想定しているが、いつの時期から受注の回復傾向が鮮明となるのか注目される。とりわけ、同社の主力製品である ASA COLOR LED、RFID タグ用ゴム製品、採血用・薬液混注用ゴム栓などの受注動向が注目される。

また、2018 年 3 月期を初年度とする三カ年の V-2 計画(第 12 次三カ年中期経営計画)の中で実施してきた各種の取組が成果に結びつく時期に近づいている。自動車エクステリア市場へ新規参入する ASA COLOR LENS、同社独自開発の医療用回路製品を市場投入する採血用・薬液混注用ゴム、顧客と提携し市場ニーズを満足する品質・機能を追求した RFID タグ用ゴム製品の次世代製品、電流極性の切替により冷却・加熱が可能な電子製品「ペルチェデバイス」を応用し、ゴムならではの柔軟性のある熱伝導シートと組み合わせた F-TEM などがある代表例である。今期投入予定の新製品の販売状況や採用状況についても期待を込めて注目していきたい。

<参考:コーポレートガバナンスについて>

◎組織形態、取締役、監査役の構成

組織形態	監査等委員会設置会社
取締役	8 名、うち社外 2 名

◎コーポレートガバナンス報告書

最終更新日:2018 年 6 月 29 日

「当社は、JASDAQ 上場企業としてコーポレートガバナンス・コードの基本原則をすべて実施しております。」と記載している。

<コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づいて開示している主な原則>

原則	開示内容
【株主以外のステークホルダーとの適切な協働】	年二回行っている社内での方針説明会、また毎月全社員を対象に行っている月例報告会で、健全な事業活動倫理を尊重する精神について、様々な角度と表現で伝えています。また、地域の経済同友会などに加盟し、他企業と交流を深めることで情報収集を行い、社内に展開しております。特に重視しているのは社内でのオープンなコミュニケーションです。いろいろな意見を出せる環境、聞く環境を整えていくことで、ステークホルダーを尊重する企業風土を醸成していきたいと考えております。
【株主との対話】	当社 WEB サイトで中期経営計画をわかりやすく公開しています。また、個人投資家向けのページでは、会社の目指す方向やトップメッセージなどを紹介しています。決算説明会は今期の重点施策について社長が直接説明し、当日の状況は WEB サイトにて動画配信しております。

本レポートは情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。また、本レポートに記載されている情報及び見解は当社が公表されたデータに基づいて作成したものです。本レポートに掲載された情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手したものです。その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。当該情報や見解の正確性、完全性もしくは妥当性についても保証するものではなく、また責任を負うものではありません。本レポートに関する一切の権利は(株)インベストメントブリッジにあり、本レポートの内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。

Copyright(C) 2019 Investment Bridge Co.Ltd. All Rights Reserved.